

経営比較分析表（令和4年度決算）

千葉県 旭市

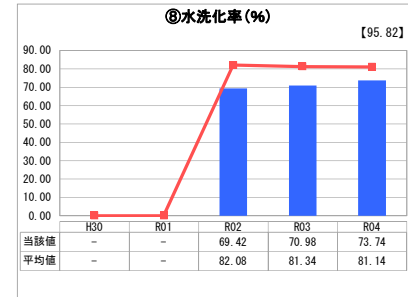
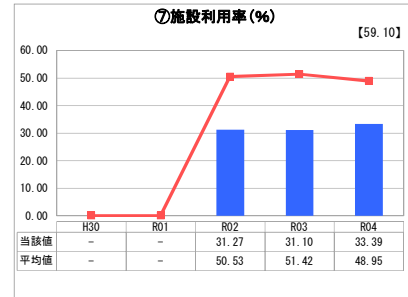
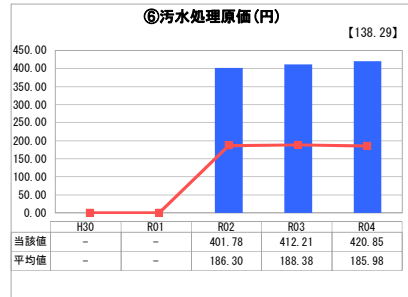
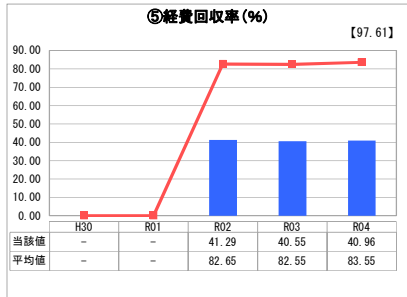
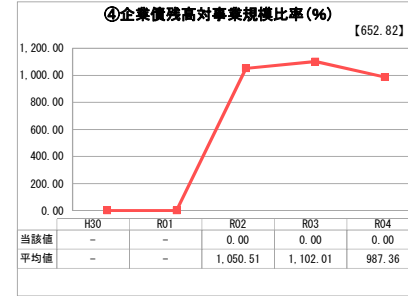
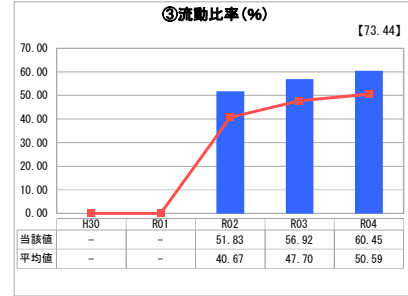
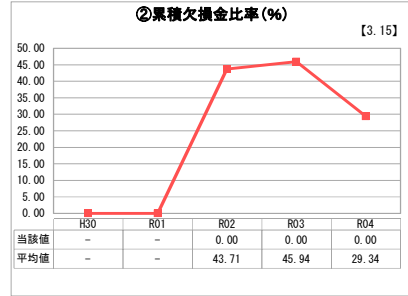
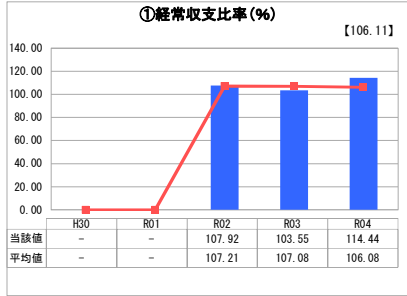
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	68.89	10.49	84.30	2,750

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
63,379	130.48	485.74
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,615	2.02	3,274.75

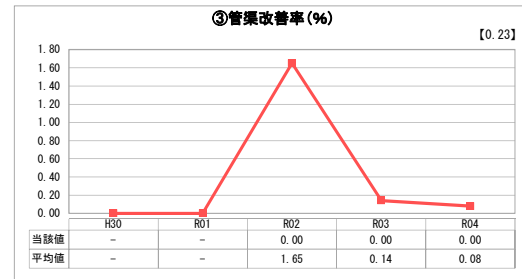
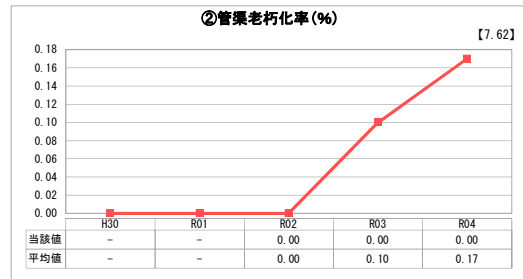
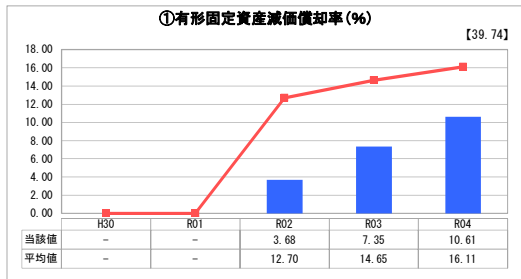
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

水洗化率については、普及促進活動により微増の傾向にあるものの、類似団体平均値及び全国平均値を下回っている。このため使用料収入が少なく、経費回収率は100%を下回っており、一般会計からの繰入金に依存する経営となっている。

また、維持管理費が高いため、汚水処理原価は類似団体平均値及び全国平均値より高額となっており、下水道の整備面積が当初計画面積より低くなっていることから、施設利用率は類似団体平均値及び全国平均値を下回っている。

現状を少しでも改善するため、更なる普及促進に努め、水洗化率の向上を図り、使用料収入を確保するとともに、施設の長寿命化や広域化・共同化による効率的な維持管理を行っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

本市の公共下水道事業は、平成6年度に建設を開始し、平成12年3月31日から供用を開始した。今までは特設の老朽化対策は行わず、既存施設の修繕を行いながら施設の長寿命化を図ってきたが、供用開始から20年以上経過し更なる効率的な改修・更新等が必要となっている。

また、今後「旭市公共下水道ストックマネジメント計画」の見直しを行い、中長期的な施設の状況予測を図りながら老朽化に備えていく。

全体総括

令和2年度から地方公営企業法を適用したことから、令和元年度以前の実績について記載はないが、使用料収入については大きな変化がなく、依然として一般会計からの繰入金に依存している状況である。

また、施設の老朽化により更新、修繕等の経費の増加が予想される。今後は計画的な施設の老朽化対策の実施や更なる普及促進に努め、経常収支比率、経費回収率の向上を目指していく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。